

論 文 要 旨

学籍番号	81433262	氏 名	田久保 英伸
論文題目： 安定的な農場経営を目的とした CSA のコンセプト設計			
<p>(内容の要旨)</p> <p>農業生産者と市民とが接近・交流するだけではなく、協力・共同して農作業を行う「協働型農業」と呼ばれる運動が近年注目を浴びている。そこで、本研究では、「協働型農業」の1つである CSA(Community Supported Agriculture)に注目をした。この CSA は、農業生産者の収入安定化に寄与する営農方式と言われてきたが、経営の厳しい CSA 農場も出てきている。従来研究では、会員が定期的に契約する「会費収入」の割合が収益構造の中で大きければ大きい程、安定的な農場経営が可能とされてきた。しかし、野菜の定期販売を中心とした「会費収入」よりも、パンや米・卵といった生産物を「会員へ追加販売」する方が収益の割合として重要だということがわかっている。ただし、このような収益構造を持つ CSA 農場(=複合型 CSA)は、日本国内に1例しか存在せず、国内の一般的な CSA は未だに安定的な経営を成し得る事が出来ない状況になっている。</p> <p>そこで本研究では、複合型 CSA 農場の関係者へのインタビューにより、複合型 CSA システムを明らかにした。その複合型 CSA を実現するためには、2点重要だということがわかった。それは、「会費事業」と「会員への追加販売事業」とで「分業体制」を取ることと、「会員への追加販売事業」への設備投資代を確保することである。ただし、現存する複合型 CSA は、大規模な農地を有する CSA のみであり、小規模な農地を有する CSA が複合型 CSA になる方法が不明であった。</p> <p>そこで本研究では、小規模 CSA 農場で、複合型 CSA のような収益構造に変容するために必要なコンセプトを求めた。結果として、小規模 CSA が複合型 CSA に変容するためには、以下の6点が求められるという仮説が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 研修生の確保を恒常的に行うこと2. 会員への追加販売事業に必要な設備投資代をクラウドファンディングによって集めること3. 有機農法/自然農法のマニュアルを体系化すること。4. 研修生に対し、CSA に関する農業技術と運営方法の伝播を行い、作業効率を高めること5. 会費事業に特化していた労働力を、農場主管理下で会員への追加販売事業にも分散すること6. CSA 事業で得られた資産を、会員に対して、定期的に公開すること			
キーワード (5 語) CSA、協働型農業、農場経営、収益構造、コンセプト設計			